

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年12月9日
【四半期会計期間】	第51期第2四半期（自 2022年8月1日 至 2022年10月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古塚 孝志
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	(代表)(078)435-2800
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 新部 雅彦
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	(代表)(078)435-2800
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 新部 雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期連結累計期間	第51期 第2四半期連結累計期間	第50期
会計期間	自2021年5月1日 至2021年10月31日	自2022年5月1日 至2022年10月31日	自2021年5月1日 至2022年4月30日
売上高 (百万円)	22,926	24,396	47,119
経常利益 (百万円)	1,094	729	2,185
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	728	457	1,380
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	732	481	1,415
純資産額 (百万円)	28,638	28,751	29,082
総資産額 (百万円)	35,833	35,603	36,502
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	27.42	17.21	51.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	79.9	80.8	79.7
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	1,454	858	3,421
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	487	589	1,014
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	697	1,204	1,309
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	13,290	13,191	14,124

回次	第50期 第2四半期連結会計期間	第51期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自2021年8月1日 至2021年10月31日	自2022年8月1日 至2022年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	8.53	6.70

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2022年5月1日～2022年10月31日）におけるわが国経済は、新型コロナワクチンの接種率の向上、「withコロナ」の生活様式への移行に伴う人流の回復などにより、経済活動は正常化しつつある一方、長期化しているウクライナ情勢などによる原油価格や穀物価格の高騰、米国の金利上昇による急激な円安進行など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

中食・惣菜業界におきましても、原材料価格やエネルギー価格の上昇が影響し、業界全体で価格改定の動きが顕著になるとともに、更なる物価上昇の懸念など先行きへの不安から生活者の節約志向が高まり、厳しい経営環境となっております。

このような状況のもと、当社グループは2023年4月期を始期とする3ヶ年の中期経営計画の基本戦略のひとつ「新たな顧客接点の拡充」に基づき、居住地近郊エリアへの出店強化として、神戸コロッケ「JR神戸駅店」、グリーン・グルメ「錦糸町テルミナ店」、同「イズミヤ千里丘店」、同「アスティー宮店」を新規出店いたしました。また、9月26日には「ロック・フィールドメンバーズ」の公式アプリを開設し、お客様との長期的な関係性構築へ向け、会社の取り組みやブランド・商品に関する情報を発信するとともに、商品購入などでポイントを貯め、貯めたポイントで特別なグッズや商品と交換できるポイントプログラムを開始いたしました。これにより、当第2四半期連結会計期間から自社ポイントに係る契約負債を「流動負債」の「その他」に計上しております。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		2022年4月期 第2四半期（連結）		2023年4月期 第2四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1		百万円	%	百万円	%	%
	サラダ	8,040	35.1	8,353	34.3	103.9
	フライ	2,654	11.6	2,778	11.4	104.6
	その他惣菜	3,542	15.4	3,912	16.0	110.5
	小計	14,237	62.1	15,044	61.7	105.7
グリーン・グルメ		4,521	19.7	4,877	20.0	107.9
いとはん		1,581	6.9	1,736	7.1	109.8
神戸コロッケ		1,203	5.3	1,408	5.8	117.0
融合		485	2.1	467	1.9	96.3
ベジテリア		370	1.6	400	1.6	108.1
その他		526	2.3	462	1.9	87.8
合計		22,926	100.0	24,396	100.0	106.4

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、ブランド創設30周年の特別企画として、8月31日の「野菜の日」には、「30周年のキャラクター『SOZAIさん』を緑の30品目サラダで作ろう!」という新しい企画に取り組み、野菜を食べることの重要性に加え楽しく食べることで感じられる美味しさや面白さの提案を行いました。9月には「フードペアリング企画」を実施し、定番商品の「みんな大好き!小海老のフライ」にパイン&サワークリームソースを合わせるなど、素材の組み合わせの斬新さによる新しい美味しさの提案を行い、売上高は15,044百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

「グリーン・グルメ」ブランドにおきましては、香ばしくグリルしたとうもろこしと牛肉の希少部位を合わせた「牛いちぼのローストとグリルコーンのサラダ」をはじめ、新じゃが、きのこ、かぼちゃなどの旬の素材を使用したサラダや料理の提案を行うとともに、シルバーウィークやハロウィンなどハレの日の食卓を彩る商品の提案を行い、売上高は4,877百万円(前年同期比7.9%増)となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、コクと甘みが美味しく、粒皮が薄くて食べやすい品種のとうもろこし「恵味」を使用した「とうもろこし『恵味』の和さらだ」や、軽く燻製をしたチキンの香りと旨みが滋味深い味わいの無花果の甘味や香りを引き立たせた「無花果と燻製チキンの和さらだ」など、旬の素材を活かした和さらだや料理の提案を行い、売上高は1,736百万円(前年同期比9.8%増)となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、「新じゃが収穫祭」をテーマに、コロッケの美味しさの源であるじゃがいもの産地、北海道北見市端野町との30年来の取り組みを紹介するとともに、「新じゃがのとろけるバターコロッケ」など新じゃがの甘味や香りをバターのコクで味わうコロッケの提案や、「宮崎県産里芋のコロッケ」など季節素材の食感にこだわったコロッケの提案を行い、売上高は1,408百万円(前年同期比17.0%増)となりました。

「融合」ブランドにおきましては、「アジアで発見!秋の美味・旨みの美食」をテーマに、ローストしたきのこと鶏だしでボイルした優しい食感の干し豆腐を合わせ、ティムツペッパーの爽やかな香りをアクセントにした和え物「干し豆腐と焼ききのこの中華和え」など、季節素材とアジアテイストを掛け合わせた商品の提案を行いました。売上高は467百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、1杯ずつミキサーにかけて緑の野菜のみずみずしさを味わっていただく「野菜好きに贈る 飲むグリーン」や、旬を感じるストレートジュースとして「にっぼんの桃」「葡萄の王様 巨峰」などの商品の提案を行い、売上高は400百万円(前年同期比8.1%増)となりました。

「その他」ブランドにおきましては、オンラインショップにて、2022年9月よりヨーロッパの美食の街の料理をテーマとした「旅するサラダ」シリーズを展開するとともに、ソムリエがサラダに合わせて選んだワイン付セットの販売を開始し、好評をいただいています。また、連結子会社である岩田(上海)餐飲管理有限公司におきましては、中国政府によるゼロコロナ政策に伴う上海市内の一部ロックダウンの影響により、来店客数が大幅に減少し、売上高は462百万円(前年同期比12.2%減)となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は24,396百万円(前年同期比6.4%増)、営業利益は700百万円(前年同期比34.9%減)、経常利益は729百万円(前年同期比33.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は457百万円(前年同期比37.2%減)となりました。

なお、当社グループは惣菜事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べて899百万円減少し、35,603百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少913百万円、売掛金の減少118百万円、仕掛品の増加161百万円、有形固定資産の減少99百万円等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べて567百万円減少し、6,852百万円となりました。これは主に、未払法人税等の減少310百万円、長期借入金の減少270百万円等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べて331百万円減少し、28,751百万円となりました。これは主に、配当金の支払による利益剰余金の減少824百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加457百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は80.8%、1株当たり純資産額は1,080円97銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて933百万円減少し、13,191百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、858百万円(前年同期比596百万円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益729百万円、減価償却費819百万円、法人税等の支払額535百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、589百万円(前年同期比102百万円の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出382百万円、長期前払費用の取得による支出88百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,204百万円(前年同期比507百万円の増加)となりました。これは主に、配当金の支払額822百万円、長期借入金の返済による支出270百万円等によるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は71百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(8) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

(9) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

当第2四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの詳しい状況につきましては、「(3) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年10月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年12月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,788,748	26,788,748	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	26,788,748	26,788,748	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年8月1日～ 2022年10月31日	-	26,788,748	-	5,544	-	5,861

(5)【大株主の状況】

2022年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社岩田	兵庫県芦屋市大原町17-18	2,300	8.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	2,018	7.58
ロック・フィールド取引先持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	1,415	5.32
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 株式会社日本カスト ディ銀行)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,312	4.93
株式会社四国銀行 (常任代理人 株式会社日本カスト ディ銀行)	高知県高知市南はりまや町1-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,242	4.67
岩田 弘三	兵庫県芦屋市	784	2.94
ロック・フィールド社員持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	596	2.24
三菱HCキャピタル株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	482	1.81
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2-1-1	413	1.55
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区大手町2-6-4	412	1.55
計	-	10,978	41.27

(注) 1. 株式会社岩田は、当社代表取締役会長岩田弘三が株式の100%を保有する会社であります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)

2,018千株

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2022年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 190,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,582,100	265,821	-
単元未満株式	普通株式 15,748	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	26,788,748	-	-
総株主の議決権	-	265,821	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、当該株式に係る議決権の数24個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の「株式数」の欄には、自己株式1株が含まれております。

【自己株式等】

2022年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15番地2	190,900	-	190,900	0.71
計	-	190,900	-	190,900	0.71

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年8月1日から2022年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年5月1日から2022年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,524	13,611
売掛金	4,223	4,104
製品	68	58
仕掛品	108	270
原材料及び貯蔵品	626	628
その他	201	237
貸倒引当金	5	5
流動資産合計	19,747	18,905
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,491	9,366
土地	2,948	2,948
その他(純額)	2,405	2,431
有形固定資産合計	14,844	14,745
無形固定資産		
その他	222	295
無形固定資産合計	222	295
投資その他の資産		
その他	1,711	1,680
貸倒引当金	23	23
投資その他の資産合計	1,688	1,657
固定資産合計	16,755	16,698
資産合計	36,502	35,603
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,268	1,280
1年内返済予定の長期借入金	540	540
未払法人税等	643	333
賞与引当金	723	604
その他	2,757	2,812
流動負債合計	5,933	5,570
固定負債		
長期借入金	1,040	770
その他	446	511
固定負債合計	1,486	1,281
負債合計	7,420	6,852

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,878	5,882
利益剰余金	17,689	17,322
自己株式	183	176
株主資本合計	28,927	28,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	84	102
為替換算調整勘定	70	75
その他の包括利益累計額合計	154	178
純資産合計	29,082	28,751
負債純資産合計	36,502	35,603

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 5 月 1 日 至 2021年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)
売上高	22,926	24,396
売上原価	9,585	10,474
売上総利益	13,341	13,921
販売費及び一般管理費	12,265	13,221
営業利益	1,075	700
営業外収益		
受取配当金	4	5
保険配当金	11	16
その他	10	14
営業外収益合計	26	35
営業外費用		
支払利息	4	3
解約違約金	1	-
為替差損	0	1
その他	0	1
営業外費用合計	7	6
経常利益	1,094	729
税金等調整前四半期純利益	1,094	729
法人税等	365	272
四半期純利益	728	457
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	728	457

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
四半期純利益	728	457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	18
為替換算調整勘定	2	5
その他の包括利益合計	3	23
四半期包括利益	732	481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	732	481
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,094	729
減価償却費	827	819
賞与引当金の増減額(は減少)	75	119
受取利息及び受取配当金	4	5
支払利息	4	3
売上債権の増減額(は増加)	675	120
棚卸資産の増減額(は増加)	16	153
仕入債務の増減額(は減少)	79	10
その他	584	14
小計	1,819	1,391
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	4	3
法人税等の支払額	364	535
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,454	858
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	20	20
有形固定資産の取得による支出	381	382
無形固定資産の取得による支出	28	77
長期前払費用の取得による支出	61	88
差入保証金の差入による支出	3	24
差入保証金の回収による収入	7	3
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	487	589
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	270	270
リース債務の返済による支出	134	112
配当金の支払額	292	822
財務活動によるキャッシュ・フロー	697	1,204
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	3
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	272	933
現金及び現金同等物の期首残高	13,018	14,124
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,290	13,191

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書「注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響による会計上の見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
支払手数料	2,976百万円	3,233百万円
給料及び賞与	4,429	4,678
賞与引当金繰入額	408	442

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
現金及び預金勘定	13,710百万円	13,611百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	420	420
現金及び現金同等物	13,290	13,191

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2021年5月1日至2021年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年7月28日 定時株主総会	普通株式	292	11	2021年4月30日	2021年7月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年12月3日 取締役会	普通株式	239	9	2021年10月31日	2022年1月19日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2022年5月1日至2022年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年7月27日 定時株主総会	普通株式	824	31	2022年4月30日	2022年7月28日	利益剰余金

(注) 2022年7月27日定時株主総会決議の1株当たり配当額には、記念配当20円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年12月2日 取締役会	普通株式	239	9	2022年10月31日	2023年1月18日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2021年5月1日至2021年10月31日)及び当第2四半期連結累計期間
(自2022年5月1日至2022年10月31日)

当社グループは、惣菜事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは惣菜事業の単一セグメントであるため、顧客との契約から生じる収益(全て一時点で移転される財又はサービス)の分解情報については、以下のとおりブランド別に記載しております。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)

(単位:百万円)

	ブランド別売上高							合計
	RF1	グリーン・グルメ	いとはん	神戸コロッケ	融合	ベジタリア	その他	
顧客との契約から生じる収益	14,237	4,521	1,581	1,203	485	370	526	22,926

当第2四半期連結累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

(単位:百万円)

	ブランド別売上高							合計
	RF1	グリーン・グルメ	いとはん	神戸コロッケ	融合	ベジタリア	その他	
顧客との契約から生じる収益	15,044	4,877	1,736	1,408	467	400	462	24,396

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
1株当たり四半期純利益	27円42銭	17円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	728	457
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	728	457
普通株式の期中平均株式数(株)	26,585,743	26,593,199

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2022年12月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....239百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....9円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年1月18日

(注)2022年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年12月 1日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

神戸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

西方 実

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

福井 さわ子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの2022年5月1日から2023年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年8月1日から2022年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年5月1日から2022年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の2022年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。